

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	66	事業名	保健衛生普及事業	担当部課	福祉部保険医療課
------	----	-----	----------	------	----------

基本情報	総合計画	基本方針	-	会計	2	国民健康保険特別会計
		分野別項目	-	款	8	保健事業費
		施策の進め方	-	項	1	保健事業費
	まちづくり 行程表	フラッグ	-	目	1	保健衛生普及費
		政策分類	-	大事業	2	保健衛生普及事業
	その他(関係法令、要綱等)		国民健康保険法			
事業開始の背景、経緯等		国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・糖尿病重症化予防事業 ・まちの健康教室 ・医療費通知 ・後発医薬品差額通知				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民(国保被保険者)				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康づくりへの関心を高めて「行動変容」を促し、「気づいたら、健康になれるまち」を実現する。				
	事業を構成する事務事業	① 保健衛生普及事業	改善・見直し	④		
		②		⑤		
		③		⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			4,614	7,228
決算						4,216	6,890	
人件費(B)	千円	決算			10,686	7,688		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			14,902	14,578		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 生活習慣の改善意欲がある人の割合	%	目標	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0
			実績	57.7	58.7	58.1	60.6	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 保健事業の実施効果をみるために、生活習慣の改善意欲(健診時)がある人の割合を成果指標とする。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても保険者として特定健診の結果の見方を解説する「健診結果説明会」などフォローアップ事業も行われており、事業の結果を生活習慣の改善につなげる工夫が見られる。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) まちの健康教室は、平成28年度から毎月定例化し、登録人数で70人を超え、1回あたりの参加者も40人となっており、参加者の満足度も高く、今後、参加者自らが運営する形に移行していく。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 健康教室の運営を担う人材育成

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 保健事業として健康リスク別にアプローチして、誰もが気軽に健康づくりに取り組みやすい環境を整える。そのことにより健康づくりへの関心を高めて行動変容を促し、「気づいたら、健康になれるまち」の実現を目指す。
	中長期の目標	まちの健康教室の運営(準備・進行など)については、平成29年度中に市民主体に移行する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		保健衛生普及事業									
番号	①	事務事業名	保健衛生普及事業	款	8	項	1	目	1	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成27年度	終了（予定）年度	-								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	①健康リスクの高い国保被保険者（肥満・高血圧）を対象にして、健康課題に合わせた健康教室を実施 ②元気な高齢者を対象に、まちの健康教室（毎月定例・地域展開）を実施
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 教室への参加を通して、健康づくりへの関心を高め、生活習慣の改善につなげる。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			4,614	7,228	6,217
		決算			4,216	6,890	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
地域における取組	箇所	目標	-	-	-	6	6
		実績	-	-	-	3	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

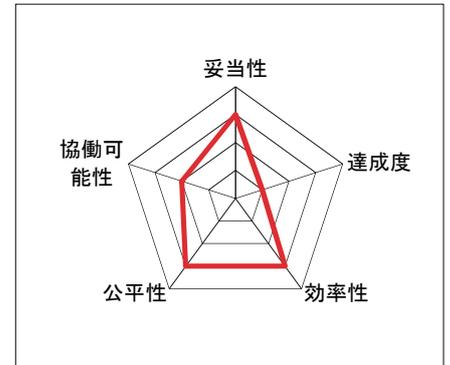
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
単に健康教室に参加するだけでなく、プログラム運営の担い手となる人材の育成が必要。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
①健康課題（リスク）に合わせた保健事業を展開 ②まちの健康教室の市民運営・地域展開
(何をどのような状態に改善したのか)
①肥満教室（BMI25以上）、血圧改善教室（150以上）実施 ②毎月定例で実施。会場準備は参加者に依頼。地域展開に向けては、参加者を校区別に分けて座談会を開催し、地域での集まりを3カ所程度でスタートすることができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	1
効率性	3
公平性	3
協働可能性	2



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
健康リスクの高い人を対象にした教室を少人数制で行い、より個別的な対応ができた。まちの健康教室を毎月定例で開催したことで、参加者の仲間づくり、継続的な健康づくりにつなげることができた。

### 【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
市民運営や地域展開について、参加者への強制にならないよう気軽に関われる仕掛けが必要。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
健康リスクの高い人を対象にした「糖尿病重症化予防事業」の実施により、医療費の抑制に向けた独自の検査数値改善プログラム（運動・栄養）を実践する。
まちの健康教室の市民運営・地域展開を進めるため、元気高齢者を対象に、担い手となる人材の養成講座を実施する。